

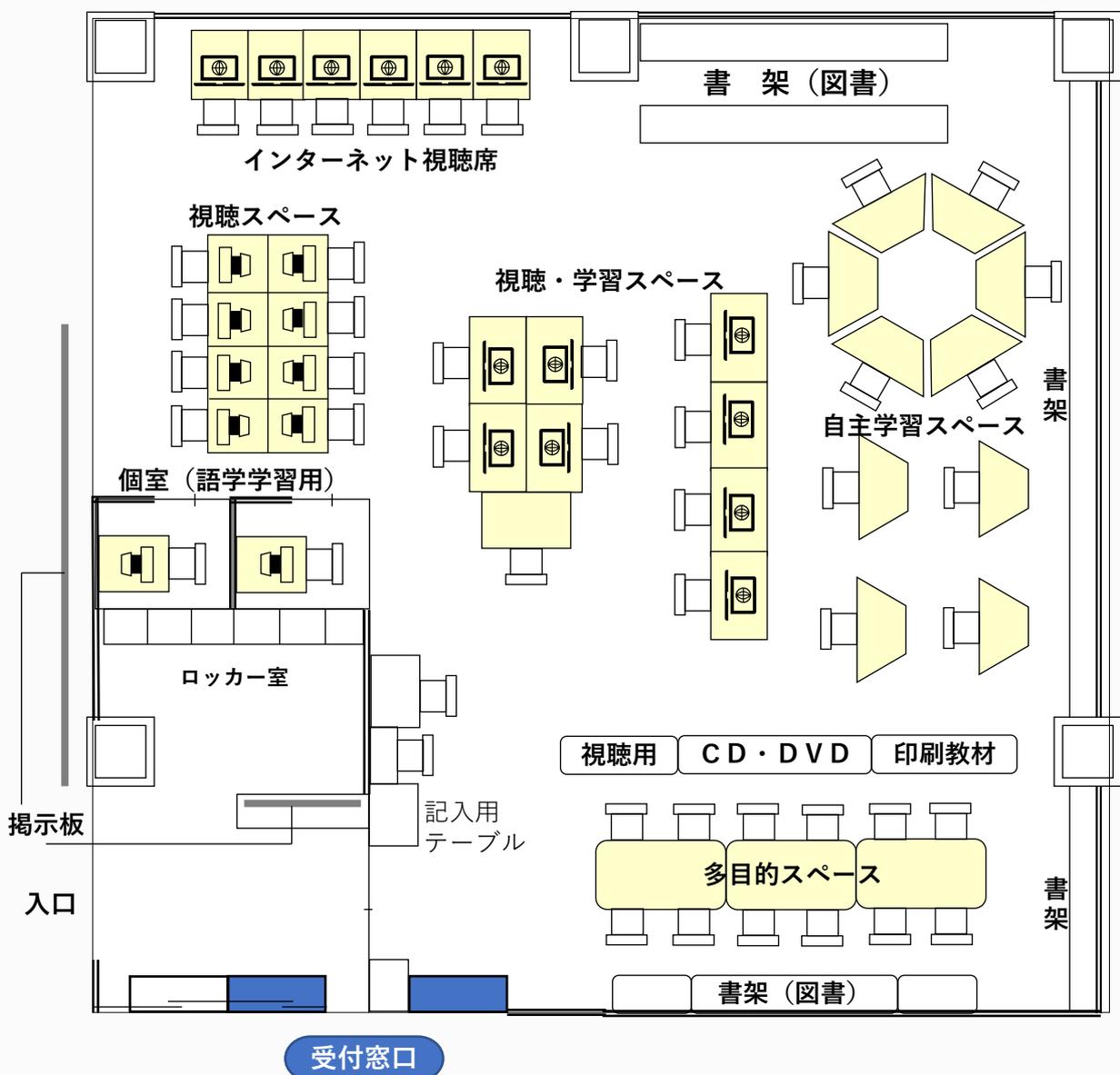
視聴学習・図書室の利用

視聴学習・図書室には、放送授業を再視聴できる設備があります。また、視聴学習・図書室及び学生交流スペースに設置してあるパソコンは、「ユーザー名（学生番号10桁）・パスワード」を入力して利用することができます。

なお、Wi-Fi環境が整っていますので「無線LAN利用申請（オンライン）」の手続きを行うことにより、個人のモバイル端末を利用して放送授業を視聴することもできます。詳細は本冊子P12を参照してください。

視聴学習・図書室見取図

視聴学習・図書室



入館

「山梨学習センター入館票」（以下「入館票」）に入館日時、氏名等を記入し、受付窓口で「学生証」を提示するとともに「入館票」を提出してください。

視聴学習・図書室への所持品の持ち込みは、学習上必要なパソコン等のモバイル端末、図書、筆記用具などに限ります。カバン、袋類はロッカーに入れてください。

貴重品は身に着け、携帯電話は電源を切るか、マナーモードなどに設定してください。

- (注) ○座席は自由です。なお、座席の予約はできません。
- 個室（2席）の使用は、発音練習等をともなう外国語科目の学習に限ります。
- 個室（2席）以外での発音練習や私語は控えてください。
- 学習センターにある放送教材（DVD・CD）の室外利用及び郵送貸出はできません。
- 室内での飲食はできません。学生交流スペースを利用してください。

放送教材の利用

インターネット視聴席では、専用の視聴用端末により、インターネット配信による放送授業を視聴できます。

視聴席では、放送教材（DVD・CD）を視聴することができます。

- (注) ○2019年度以降の学部新設科目及び2018年度以降の大学院新設科目の配架は行っていません。

【視聴の手順】

- ①視聴するDVD・CDを棚から取り出し、その代わりに「使用中」の黄色ラベルが貼ってある空ケースを挿入する。
- ②利用後はDVD・CDを棚に戻し、「使用中」の空ケースを元の位置に戻す。

- (注) ○ヘッドホンは、各自持参してください。

図書資料の利用

■ 閲覧

図書室には印刷教材、事典・辞書等の参考書、授業に関連した図書・雑誌があり、図書室内で閲覧できます。閲覧後は元に戻してください。

学習センター所蔵の図書・雑誌は貸出しできませんが、放送大学附属図書館より取り寄せた資料の貸出・返却は扱っています。

■ 文献複写

複写を希望するときは「文献複写申込書」に所定の事項を記入し、複写したい資料とともに受付窓口へ提出してください。

複写料は、モノクロ1枚10円、カラー1枚50円です。

なお、著作権法により次のような制限があります。

- ① 図書室にある図書資料であること。
- ② 個人の調査・研究を目的とすること。
- ③ 著作物の一部分であること。
- ④ 定期刊行物は次号が発行されている、または発行後3か月経過していること。
- ⑤ 一人につき1部であること。

参考：放送大学附属図書館の利用

放送大学附属図書館は大学本部キャンパス（千葉市美浜区）内にあり、学習や調査・研究を行うことができます。

ウェブサイトから貸出しを申し込んだり、電子資料を利用することもできます。

サービスの詳細は附属図書館ウェブサイトをご覧ください。

URL : <https://lib.ouj.ac.jp/>

利用時のログインID、パスワードはシステムWAKABAと共通です。

※附属図書館の利用全般についてのお問い合わせは、附属図書館カウンター（電話043-298-4302）へ平日9:00～18:30にお願いします。



放送大学イメージ
キャラクター“まなびー”
全国ご当地まなびー
山梨（武田信玄）

放送教材（DVD・CD）の郵送貸出

BS放送が受信できない又はインターネット環境がない等、ご家庭などに放送授業を視聴する環境がない場合でも、放送教材（DVD・CD）を郵送にて放送大学本部からご自宅に取り寄せることができます。

貸出しできる放送教材

- (1) 学期の初めから単位認定試験期間終了まで
 - ・履修している科目
 - ・再試験を受験する科目
 - ・特別講義
- (2) 単位認定試験期間の翌日からその学期の終了まで
 - ・開講中（第1学期は閉講後再試験科目を含む）のオンライン科目を除く全ての科目
 - ・特別講義

貸出期間・貸出数

20日間、5枚以内。

※上記の日数には、放送大学本部からの発送日および返却到着日を含みます。

貸出方法

放送教材貸出申込書を放送大学本部に「郵送」又は「FAX」してください。「インターネット」による申込みもできます。なお、電話での申込みはできません。放送大学本部からの郵送方法は第四種郵便のみとし、送料は往復分とも貸出申込者（学生）負担となります。

なお、放送教材の郵送貸出に関する申込みから返却までの流れは『学生生活の葉』（学部：P37／大学院：P54）にわかりやすく掲載されています。